本陣建築の現状と明治維新以降における用途の変遷に関する研究

建設工学専攻（修士課程）　503131　梶川幸恵（かじかわさちえ）
建築史研究　指導教員　伊藤洋子教授

1. 研究背景と目的

ここ近年、地域の特性を活かしたまちづくりが定着し、特に城下町・寺内町・宿場町などその町並みを活かした例は非常に多い。宿場町は参勤交替の往来と比例して発展し、明治はじめの参勤交替の廃止とともに宿場も影響を受け、さらに自動車社会の到来によりその変容は著しくなった。

特に影響を受けたのが、参勤交替で大名・公家・勅使などに使用されてきた本陣・脇本陣（以下、「本陣」という）で、幕府の保護も廃止され、明治維新後経営難に追いこまれその姿を消していく事となる。そして、今日までに焼失したり、取り壊された本陣も多く、現在でも当時の姿を見る事が出来るものは数少ない。

本研究では、今日貴重となった本陣がどれくらい現存するか把握し、それらの明治維新以降における用途の変遷をまとめ類型化しその実態を明らかにすることとともに、明治以降の宿場の発展における本陣の在り方を明らかにすることを目的とする。

2. 本陣の現状ついて

各街道に設けられた本陣だが、表 1 のように現存しているものは数少なく、大半は文化財指定、町並保存地区指定を受け、史料館や住宅として利用されている。このことから、行政からの援助なしでは維持が難しいことが窺い知れる。

また、本陣跡地には記念碑のみ建っている場合や、門のみ（本研究では対象外）残っている宿場も数多く見られ、本陣跡地や宿場の面影を感じられない町も多い。表 2 より、五街道だけ考慮しても現状を歴然と見ることができる。

表 2　五街道の宿場・本陣数

	宿場数	本陣数(軒)	脇本陣数(軒)	現存する本陣数(数)	現存する脇本陣数(数)
東海道	53	110	68	5	1
中仙道	67	72	99	9	5
甲州街道	45	41	42	3	0
日光街道	21	24	25	0	0
奥州街道	10	11	12	1	0
計	196	258	246	18	6

※ 各街道の宿駅数・本陣数は天保 14 年の宿村大概帳より

3. 明治維新政策と本陣への影響

各宿場で本陣職を担っていた家々は名家が多く、代々宿場役人（問屋※や名主など）を兼帯していた例が大半をしめる。そのため明治維新による改革で行われた駅逓司（明治元年）の設置、本陣・脇本陣の名目の廃止（明治 3 年）、伝馬所（旧問屋）廃止（明治 5 年）などの宿駅制度の廃止は、交通の往来によって潤ってきた宿場町や幕府より保護を受けてきた本陣にとって大打撃となった。これらの政策は宿場の産業にも影響を与え、幕末より厳しい生計となっていた本陣では借金で土地を追われる者も続出した。

また、火事による焼失や維持費などの経済事情により現存しているものは数少なく、交通の主要であった五街道においても幹線道路の建設という事情が加わり、本陣の廃絶傾向は顕著に表れているといえる。

※伝馬・商荷の継立や宿泊の差配など、宿駅業務を指揮する宿駅人の長

表 1　現存する主な本陣・脇本陣の状況と明治以降および現利用法

本陣・脇本陣名	街道名	明治以降の主な利用法	現利用法	保存状態	指定
旧有壁宿本陣	奥州街道	住宅（醤油造）	史料館	○※1	国史跡
安藤家脇本陣	七ヶ宿街道	住宅	住宅	座敷部	
旧粟野家住宅（庄内屋）	羽州街道	住宅（養蚕）	史料館	○	市
旧丹野家住宅（滝沢屋）	羽州街道	住宅	史料館	○	県
旧滝沢本陣横山家住宅	白河街道	（住宅）	史料館	○	国史跡・重文
旧鯖波本陣石倉家住宅	北陸街道	住宅	※2	○	国重文
旧稲吉宿本陣	水戸街道	（住宅）	住宅	座敷部のみ	町
旧中貫宿本陣	水戸街道	（住宅）	住宅	○	市
小田井宿本陣跡安川家	中仙道	（住宅）	住宅	○	町史跡
芦田宿本陣土屋家住宅	中仙道	（住宅）	住宅	座敷部・玄関	県宝
長久保宿本陣石合家	中仙道	住宅	住宅	座敷部	
和田宿脇本陣翠川家	中仙道	（住宅）	住宅	座敷部・雪隠	
今井家住宅（今井御小休止本陣）	中仙道	（住宅）	住宅	○	国登録
蓑籠宿脇本陣林家住宅	中仙道	住宅（酒造）	史料館	○	県宝
旧太田宿脇本陣林家住宅	中仙道	住宅（醸造業）	住宅	○	国重文
落合宿本陣	中仙道	（住宅）	住宅	○	市
大湫宿脇本陣	中仙道	（住宅）	住宅	半分の規模	
宮田宿本陣旧新井家住宅	伊那街道	住宅	史料館	○	県宝
二川宿本陣	東海道	住宅	史料館	○	市史跡
旧和中散本舗大角家（御小休止本陣）	東海道	住宅兼薬屋	住宅	○	国史跡・重文
有川家住宅（御小休止本陣）	東海道	住宅兼薬屋	住宅兼薬屋	○	
小原宿本陣	甲州街道	住宅	史料館	○	県
星野家住宅（下花咲宿本陣）	甲州街道	住宅（養蚕）	史料館	○	国重文
郡山宿本陣（椿の本陣）	西国街道	住宅	史料館	○	国史跡
旧田中本陣（助松本陣）	紀州街道	住宅	住宅	○	
追分宿本陣村井家	奈良街道	住宅	住宅	－	市
旧名手宿本陣妹背家住宅	大和街道	住宅	史料館	○	国史跡
旧矢掛本陣石井家住宅	山陽道	住宅（酒造）	史料館	○	国重文
旧矢掛脇本陣高草家住宅	山陽道	住宅	住宅	○	国重文
神辺本陣	山陽道	（住宅）	史料館	○	県史跡
大原宿本陣	因幡街道	（住宅）	住宅	○	町並保存地区
大原宿脇本陣	因幡街道	（住宅）	住宅	－	町並保存地区
下諏訪宿本陣岩波家	中仙道	住宅（製糸造） 旅館	住宅 旅館	座敷部 上段の間	
尾州家定本陣大黒屋	中仙道	旅館	旅館	座敷部	
奈良井宿脇本陣伊勢屋	中仙道	旅館	旅館	－	町並保存地区
木幡家住宅（八雲本陣）	宍道	旅館	旅館	○	国重文
旧小諸宿本陣主屋	北国街道	住宅 寺（本堂・庫裏）	史料館	居住部 玄関・上段の間	
旧鳩ヶ谷宿本陣	日光御成道	寺（本堂）	寺（本堂）	座敷・居室部	市
和田宿本陣	中仙道	役場・農協 寺	史料館 寺（本堂）	居住部・玄関 上段の間	国史跡
舞坂宿脇本陣	東海道	役場・旅館	史料館	書院を元に復元	町
草津宿本陣田中家住宅	東海道	役場・公民館	史料館	○	国史跡
旧取手宿本陣染野家住宅	水戸街道	郵便局	史料館	○	県・市史跡
土山宿本陣	東海道	郵便局	住宅	座敷部	
日野宿本陣	甲州街道	郵便局 住宅	 住宅	○ 上段の間	市
桶川宿本陣	中仙道	小学校	住宅	座敷部・雪隠	県

※1　○は座敷・居室・勝手部など全体的に残っている状態を示す。
※2　旧江戸村より金沢湯涌みどりの里に解体移築が決定し現在工事中
▒；実測調査対象、▒；実地調査（見学）対象を示す

4. 実測調査および明治期以降の利用法比較

現存する本陣のうち、明治以降住宅・旅館として使用されてきた旧田中本陣（実測調査対象）・八雲本陣と、特殊利用といえる旧鳩ヶ谷宿本陣（実測調査対象）・旧取手宿本陣（実地調査対象）の 4 例を比較分析する。

表 3　実測調査Ⅰ　旧田中本陣（助松本陣）

建設年代：延宝 7 年(1679)以前（修理記録より）

写真 1　長屋門

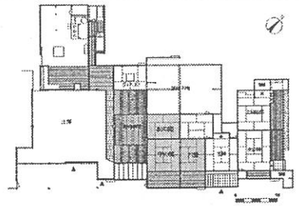

図 1　現平面図
（網掛け部　当初間取り）

用途：代々大庄屋を勤め、明治以前では養蚕や薬屋を営む。維新以降は主に住宅として使用し、戦時中陸軍将校の宿舎として利用。

分析：座敷部と居住部が別棟から、建設当初は本陣職に就いてなかったことが考えられる。また本陣では、座敷部と居住部の間に大板間もしくは土間があるのが通例だが、専用本陣かつ小休のみの利用からそれらが必要なかったことが考えられる。

痕跡図および当家に残されている古図より、次の間・中の間・六畳間（中の間隣）は建設当初の可能性が高く、「大阪泉南地方の民家形式の変遷に関する研究（2002 年　中井学著）」と比較しても、江戸時代中期に四間取りが成立した時期に相当する特徴を当家でも見ることが出来る。

表 5　実測調査Ⅱ　旧鳩ヶ谷宿本陣

建設年代：不詳（火事の記録より幕末推定）**移築年代**：昭和 7 年

写真 2　式台玄関

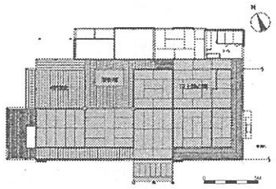

図 3　現平面図
（網掛け部　旧本陣）

用途：幕末までは名主・問屋など勤め、一時期油屋もしていたが、莫大な借金を抱え昭和 7 年に真光寺に売却。現在真光寺本堂（曹洞宗）として使用。

分析：東京・埼玉近郊の曹洞宗本堂と比較してみると、本陣（住宅）の転用である特徴をいくつか見出すことが出来る。まず、移築された 8 室は曹洞宗本堂の基本型といえるが、玄関正面に内陣が置かれていないのは上段の間への計らいと考えられる。また、同時期に建設された曹洞宗の本堂では、内陣・大間境は虹梁と差鴨居で構成され華美な彫刻が施されているが、真光寺では特に華美な彫刻類はなく、本陣の特徴といえる質素なもので構成されている。

表 4　木幡家住宅（八雲本陣）

建設年代：享保 18 年(1733)（木幡家一統系図より）

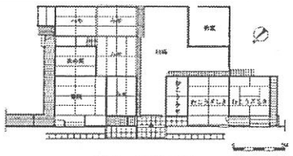

図 2　現平面図

用途：江戸時代は本陣職を兼ねながら酒造業・農業を営む半商半農の豪家であったが、昭和 20 年戦後の農地解放令により昭和 22 年から旅館を営む。

分析：明治維新以降もこれまでの経緯を活かし、旅館営業を続けた本陣も多かったと考えられるが、現在、現存する本陣建築を活用しながらの旅館経営はこの八雲本陣と奈良井宿の伊勢屋、尾州家定本陣大黒屋のみである。元来、一般住宅に本陣として利用する座敷部を増築することが多かったことから、次第に手狭で利用し難くなり、建替えを行い旅館経営を続けている本陣跡が多いと考えられる。

表 6　旧取手宿本陣染野家住宅

建設年代：寛政 7 年(1795)（文書焼失記録より）

写真 3（上）主屋　写真 4（下）旧郵便局室

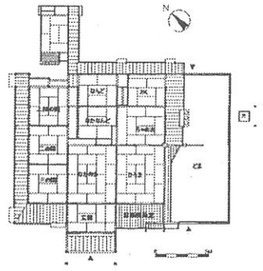

図 4　現平面図

用途：本陣職を命ぜられて以来名主を兼帯。明治 9 年内国通運会社（現日本通運株式会社）と契約、明治 11 年郵政取扱人に指名され、自宅の一部を郵便局として使用。

分析：当家以外でも本陣職に就いていた家柄の多くは、維新以降も戸長や郵政取扱人などに任命され、市町村の発展に貢献してきた。これは、建物は現存していないものの、東海道四日市宿本陣「清水本陣文書」でも郵政取扱人に任命されている清水本陣当主を確認することが出来る。

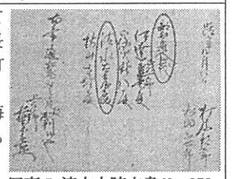

写真 5 清水本陣文書 No. 653

このように本陣建築自体は現存しないものの、文書や本陣跡地に郵便局など公共建築が置かれている例もあることから、近世以降の本陣の役割は大きかったと考えられる。

5. まとめ

本陣は江戸時代末期の苦しい経営難や明治維新の改革によって維持が難しくなり、姿を消してきた。火事や戦火により焼失した本陣も多く、現存する本陣は文化財保護を受けているものが大半を占めその価値が認められているが、都市開発のため取り壊されていく本陣もあるのが現状である。

明治以降の本陣の主な利用法は、ⅰ）住宅、ⅱ）旅館、ⅲ）寺、ⅳ）公共建築の 4 パターンに分類できることが明らかになった。本来の利用法であった住宅が主だが、酒造や養蚕などその土地特有の産業で生計を立てていたことが分かった。しかし、住宅として利用されてきた本陣の約半数が、現在史料館として利用されていることから、今後も維持の困難などにより史料館として利用される例が増える可能性が考えられる。

また、郵便局・役場といった公共建築として利用した例も多いことが分かった。これは、元来名家であった本陣家が、明治以降も行政に関わるような有力な地位に就いていたことが要因であろう。郵便局としての利用は、主に問屋を兼帯していた本陣家が飛脚のノウハウを活かすためその職に任命され、郵政取扱人が後に郵便局長と呼称を変更されていることからも、現在の特定郵便局に繋がると考えられる。

このように、本陣家は明治以降自ら商売をなすか行政の要職に就き、街の発展に貢献するとともに本陣建築を守ってきたと考えられる。

参考文献　本陣の研究　大島延次郎　吉川弘文館　1970
東海道宿駅と其の本陣の研究　大熊喜邦　日本資料刊行会　1979
鳩ヶ谷郷土史会業書第 4 集　鳩ヶ谷郷土史会　1998
近世社寺建築調査報告書集成第 4 巻　東洋書林　2003
近世宿駅制度の研究　増訂版　児玉幸多　筑摩書房　1957
旧取手宿本陣染野家住宅修理工事報告書　取手市教育委員会　2002
重要文化財木幡家住宅保存修理工事報告書　木幡家住宅保存修理委員会　1978